



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第191号

発行:2022年3月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

過渡期を変革期として捉えること

湘南泉病院 事務部長 藤田 武



令和2年7月より縁あって医療法人社団鵬友会でお世話になるようになりました。私自身、病院事務職の経験は14年前に1年半と短期間であったこともあり、法人の配慮で最初は法人本部に籍を置き、病院に慣れる事から始まり、令和3年1月から現職に就きました。今回は、病院の事務職として1年5ヶ月が経過して感じたことを記します。

新型コロナウイルス感染症により日本全体がこれまでのやり方では通用しない難しい事態の過渡期に直面しています。医療業界が直面している過渡期はその最たるものと言えるのではないのでしょうか。

現在、院内はコロナ対応をしている病棟に労力が奪われ、他は最小限の労力で通常業務の対応をする等、長期化する新型コロナウイルスとの総力戦に職員は疲弊している状況です。追い打ちをかけるように強い感染力のオミクロン株が出勤停止となる職員を増やし、更なる疲弊を生んでいます。

当院では令和2年5月という早い時期にクラスターが発生、その後1ヶ月半にも及ぶ病棟閉鎖を経験、その直後から神奈川モデル認定医療機関として疑似症患者に始まり、軽症・中等症患者の受入れ、発熱者外来、ワクチン接種、自宅療養者の外来診療、中和抗体療法による入院

治療、法人内病院・近隣高齢者施設でのクラスター発生時対応等、現在まで可能な限りのコロナ対応を行ってまいりました。

コロナ禍という過渡期が常態化している中でも従来業務は無くなりませんので、業務改善抜きに現員のまま新たな業務を実施することなど出来ません。

実際のところ、院内では資格や個人で仕事の境界線を決めがちですが、コロナ対応が長期化する中で、組織が置かれている状況を的確に捉えて柔軟に対応しようとする職員が増え業務改善に取り組んで貰えたことは、うれしい限りです。このような帰属意識の高い職員は、決してやらされている感や損得勘定ではなく主体的に対応します。終身雇用制度が崩壊し、「帰属意識」よりも「個」が尊重される時代になりましたが、「チーム医療」という言葉にあるように病院は全ての職種が課題を遂行するために協働することが求められている職場です。

いつ終わるか分からないコロナ禍において、終息という目標を達成するまでにはこれからも様々な課題を克服しなければならないと思いますが、今後もモチベーションを高く持ち続けていけるよう、このコロナ禍を過渡期ではなく、変革期と捉え、対応に当たっていく必要があると感じています。

糖尿病と新型コロナウイルス感染症

【糖尿病があると感染症にかかりやすい】

糖尿病は、血液中の糖（ブドウ糖）が多い高血糖の状態が続き、全身の血管が傷ついていく病気です。

糖尿病で高血糖の状態が続くと、白血球の働きが低下してしまうことが分かっています。白血球は、ウイルスや細菌などを攻撃し、私たちの体を守る免疫の働きを担っています。そのため、糖尿病があると、新型コロナウイルスを含めたさまざまな感染症にかかりやすくなるのです。

新型コロナウイルスに感染した場合は、健康な人に比べて重症化しやすいこともこれまでの報告でわかってきています。特に、高齢の方、糖尿病の合併症がある方、血糖コントロールが不良な方などは、十分な注意が必要です。また、糖尿病の方が感染症にかかると、血糖値がさらに高くなるという悪循環に陥り、糖尿病そのものの治療も難しくなってしまいます。

【特に注意！シックデイとは 症状と対策について】

糖尿病の方が、感染症などの病気にかかり、発熱、嘔吐、下痢、食欲不振になり、血糖値が乱れやすくなった状態を「シックデイ」（＝体調の悪い日）と呼びます。シックデイでは、病気のストレスでインスリンの効きが悪くなって高血糖となったり、その反対に食事ができず、食べる量が少ないにも関わらず、いつも通り薬を飲んだり注射することで低血糖がおきることがあります。

新型コロナウイルスによるシックデイも通常のシックデイと同様に、家庭での対応の基本である「シックデイルール」を守ることが大切です。

【シックデイルール】

- ・安静と保温につとめる
- ・スープなどで十分に水分を摂り、口当たりがよく、消化しやすいお粥やうどんなどで炭水化物を摂取する
- ・インスリンは自己判断で中断しない
- ・経口薬を使用している患者さんは、服用量の調整が必要な場合がある
- ・可能ならこまめに血糖自己測定をして、血糖値と病気の状態を確認する



横浜市「人生会議」短編ドラマ 【YouTubeで公開】

横浜市では、人生の最終段階をどう過ごしたいかを元気なうちから考え、希望する医療・ケアについて家族や大切な人と話し合う、アドバンス・ケア・プランニング（ACP：愛称「人生会議」）の啓発を進めています。（横浜市ホームページより）

【湘南泉病院は、短編ドラマの撮影協力をしました。】

稔（みの）りの世代（高齢期）編
～みなとの見える街で～



主演：竹中直人さん

働き盛り世代（壮年期）編
～みどりの見える街で～



主演：高島礼子さん

※画像は横浜市医療局提供